



令和6年度(2024年度)版 地域防災活動の優良事例集



令和 6 年度（2024年度）選定

中央区 (P1 ～ P4)

★事例① 黒髪校区第四町内自治会の取り組み

東 区 (P5 ～ P7)

★事例② 西原校区防災の取組

西 区 (P8 ～ P10)

★事例③ 春日校区の取組

南 区 (P11 ～ P14)

★事例④ 飽田東・西・南校区の取り組み

北 区 (P15 ～ P16)

★事例⑤ 城北校区の取組

黒髪校区第四町内自治会の取り組み

地域名 黒髪校区第四町内自治会

1 地域の概要

《黒髪五丁目人口》（令和6年4月現在）

* 黒髪校区第四町内は黒髪五丁目に属する。

- ・ 人数：1,403人 世帯数：823世帯
- ・ 高齢化率：26.9%

《地勢的な特徴》

・ 北側には立田山（野鳥の森、五高の森）、南側には白川と豊かな自然が広がっている地域である。

また、熊本大学がある昔からの文教地区でもあり、リデル・ライト両女史記念館が両女史の業績を伝承している。

《想定される災害》

- ・ 河川の氾濫、地震、がけ崩れによる土砂災害。

《その他、特筆すべき地域の特徴など》

- ・ 町内の高齢化率が高く、高齢者と学生の二極化が顕著にみられる。
- ・ 町内にある熊本市立桜山中学校が避難所として指定されている。

《黒髪校区第四町内自治会 自主防災クラブ》

- ・ 小学生の登下校の見守りを「子供見守りクラブ」が毎日行い、毎月20日の朝には自主防災クラブが挨拶運動を行っている。
- ・ 自主防災クラブは大学生の協力を得ながら、月2回の資源物回収活動を行い活動資金としている。
- ・ 災害への備えとして、地域の環境整備、危険箇所の点検、防災備品の整備、防災訓練、講習会や研修等を行っている。



2 これまで地域で取り組んできたこと

～地域住民のつながり強化～

《課題》

・新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことに伴い、自粛していた活動を再開したが、地域の高齢化などにより、以前のような活発な活動ができない状況。

《取組》

・子供見守りクラブでは、小学生の登下校の安全を見守る活動や、自主防災クラブの資源物回収などの活動を継続。

老人会やいきいきサロンの活動においても、新型コロナウイルス感染症に注意しながら、新たに屋外テントを購入し屋外で活動を継続。

会員や地域の方々の防災意識が低下することのないよう、会の活動に自治会及び自主防災クラブからも積極的に参加し防災に関する啓発等を行うなど、様々な工夫を凝らし徐々に防災啓発に関する活動も再開した。

・子育て世代に焦点をあて、親子参加型の「立田山親子ウォークラリー」を隣接する第五町内と共同で開催した。（令和6年11月3日）熊本市立必由館高等学校からボランティアとして19名が参加し、約120名が参加するイベントとなった。アンケートの回答でも好評を得たため、今後も継続して開催し、町内の顔の見える関係性を構築していきたい。



子供見守りクラブ



立田山親子ウォークラリー

～災害リスクの軽減～

《課題》

・以前、農業用水として使われていた溜池に草木が生い茂り、雨水の溜り場となっていた。また、大雨や地震による法面崩壊に不安があった。

《取組》

- ・草木の撤去。
- ・農業用水としての必要性がなくなったため、水抜き作業を行い、流水型構造の溜池へと変更し、その維持管理に努めている。
- ・許容貯水量の調査、排水の制限構造物の設置等を行い、流水による土砂や障害物の除去を行った。

この取組により、災害リスクの軽減に繋がったことが評価され、黒髪校区第四町内自主防災クラブが総務省消防庁主催の「防災まちづくり大賞」で「日本防火・防災協会会長賞」を受賞した。



～防災に関するその他の取組～

- ・総務省消防庁の防災意識向上プロジェクトの語り部として、黒髪校区第四町内の自主防災クラブ会長が委嘱された。 (令和6年度～)
- ・能登半島地震の救援活動の報告会を中央公民館で開催した。 (令和6年2月)
- ・熊本県からの依頼でパレアにて防災講演を実施した。 (令和6年6月)
- ・長野市の松代地区住民自治協議会と信州大学から招へいを受け防災講演を実施した。 (令和6年7月)
- ・別府市からの依頼で中央公民館で防災講演を実施した。 (令和6年11月)



防災講演風景（別府市視察時）



講演後の市民ディスカッション
（松代地区住民自治協議会）

3 現在の課題と今後の取組

『町内の各組織とも高齢化が進み、次世代の担い手がないことが大きな課題である。今回、「立田山親子ウォークラリー」を開催し、子育て世代に自治会の役割をある程度理解していただけたが、次は一緒に活動する機会を提案していきたい。

また、避難訓練などの防災活動にも親子揃って参加し、自助や共助の大切さを後世に伝えていきたい。

経験したコロナ禍のような事態がいつ起こるか分からないが、地域の力で乗り越えられることを経験したので、今後大きな災害に直面しても、互いに支え合い仲良くみんなで困難に立ち向かう災害に強い町内づくりを目指していきます。』

(黒髪校区第四町内自治会長より)



ゴミステーション整備



餅つき大会

黒髪校区第四町内で実施した様々な取組

4 参考資料など

- ・ 黒髪校区第四町内自治会長 手記
- ・ 自主防災クラブ 令和6年度 総会資料
- ・ 第28回 防災まちづくり大賞 受賞事例集

西原校区防災の取組

地域名：東区西原校区

1 地域の概要

※R6年4月時点

- 【地域人口】 13,723人（男：6,579人 女：7,144人）
- 【世帯数】 7,387世帯
- 【高齢化率（65歳以上）】 25%
- 【地勢的な特徴】 東区の北西部に位置し、住宅や商業施設が多い。校区の北側に白川、中央に藻器堀川が流れている。
- 【想定される災害】 布田川断層・日奈久断層による「地震」、白川、藻器堀川による「洪水」の災害リスクが高い。
- 【その他】 令和5年1月に、熊本市と東海大学熊本キャンパスが災害時協定を締結したことで大学や校区内の民間企業と連携し、防災活動に取り組んでいる。



西原校区

2 これまで地域で取り組んできたこと

(1)今までの取組

- | | |
|---------|---|
| 平成30年4月 | 西原校区防災連絡会設立 |
| 令和元年8月 | 西原小学校、西原中学校に避難所運営委員会を設立 |
| 令和3年3月 | 保田窪公園での炊き出し訓練実施 |
| 令和4年4月 | 西原校区避難所開設運営訓練実施 |
| 令和5年1月 | 熊本市と東海大学熊本キャンパスが災害時協定締結
(体育館等の屋内施設の一部を指定緊急避難場所として開放) |
| 10月 | 東海大学熊本キャンパス避難所運営委員会設立 |
| 令和6年2月 | 西原校区地区防災計画策定 |
| 5月 | 防災を考える日 開催 |
| 11月 | マイタイムライン研修 |
| 12月 | 防水・防火訓練 |



マイタイムライン



防水・防火訓練

3 現在の課題と今後の取組

(1)現在の課題

校区の近くまで布田川断層・日奈久断層帯が延びており、校区の北側を一級河川の白川が、中央を一級河川の藻器堀川が流れ、「地震」、「洪水」の災害リスクが高い。

熊本地震の際には、避難所である小中学校は避難者で溢れたため、多数の方たちがグラウンドや公園などの広場での車中泊を余儀なくされていた。

(2)今後の取組

「防災を考える日」で決定した2つのやるべきことを中心に防災に取り組んでいく。

- ・住民への防災情報の発信を行う。

校区の災害被害及び避難所の状況などを住民に発信するために、どのようにするか部会で検討している。

- ・民間企業と連携する。

校区内のパチンコ店と災害時の車中泊スペースとして、駐車場を使用させてもらえるよう地域と民間企業主体の災害時協定を締結できるように動いている。

4 参考資料など

西原校区地区防災計画

https://www.city.kumamoto.jp/common/UploadFileDsp.aspx?c_id=5&id=1368&sub_id=52&flid=407661

にしるる防災マップ【洪水編】



にしるる防災マップ【地震編】



春日校区の取組

地域名:西区 春日校区

1 地域の概要

【地域人口】 8,509人 【世帯数】 4,347世帯 【高齢化率】 24.3%

【地勢的な特徴】

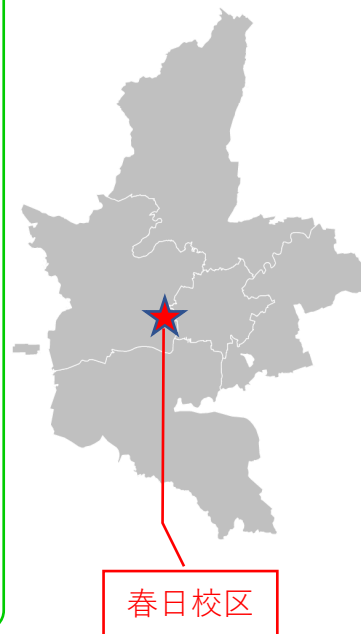
春日校区は、西区の東部に位置し校区の東側に白川・坪井川が流れ、北側に花岡山、西側に万日山がある。また、校区の東側を南北に九州新幹線・JR鹿児島本線が通っており、東・南側には県道28号線が通り、この県道内を南北に熊本市電が通っている。

【想定される災害】

河川の氾濫、土砂災害、地震による液状化、内水氾濫

【その他、特筆すべき地域の特徴】

春日校区には、熊本駅や行政施設である森都心プラザ、合同庁舎が立地することから、飲食業、宿泊施設、金融機関などの第三次産業の割合が高い地域となっている。また、熊本駅周辺地域は、平成17年に熊本県と熊本市が締結した「熊本駅周辺地域整備基本計画」に基づき、陸の玄関口にふさわしい地域となるよう整備が進められている。



春日校区

2 これまで地域で取り組んできたこと

【課題】

春日校区は、陸の玄関口として高層マンションをはじめ商業施設等が立ち並び近代化の様相を呈し、現在も駅周辺の再開発が進められており、街並みが大きく変化している。

災害の観点からは、東側には白川・坪井川が流れ、北側には花岡山、西側には万日山があることから、河川氾濫による浸水、花岡山・万日山急傾斜地の土砂災害などが懸念される。

また、災害時に想定される熊本駅周辺の帰宅困難者対策も理解しておかなければならない。

【課題解決に向けた取組の概要】

①春日校区の防災連絡会・避難所運営委員会は令和3年3月に設立されたが、コロナ禍により活動自粛を強いられた時期であったことから、校区防災連絡会としては地域防災活動の活性化を目指し、春日校区の関係団体と協力を深めてきた。

その中でも、春日地区に防災活動を啓発する人々がいることを知り、協力を求め、「地域に根付いた防災士」「消防団」など有志による「春日防災士の会」の設立とともに活動を行ってきた。

【特に工夫してきた点】

①春日地域の防災活動が円滑となることを目的に「春日防災士の会」を、校区防災連絡会に取り込み、各種イベント・研修・避難所における運営の中核とした。

②「春日防災士の会」のネットワークにより各方面からの情報を得やすくすることで、防災活動が迅速かつ適切に対応できるようにした。

③発災時の避難所運営及び災害に臨機に対応がとれることを目的に、春日小学校避難所運営委員会・森都心プラザ避難所運営委員会の取りまとめを行うとともに各避難所の人員配置・運営の管理を行う組織とした。

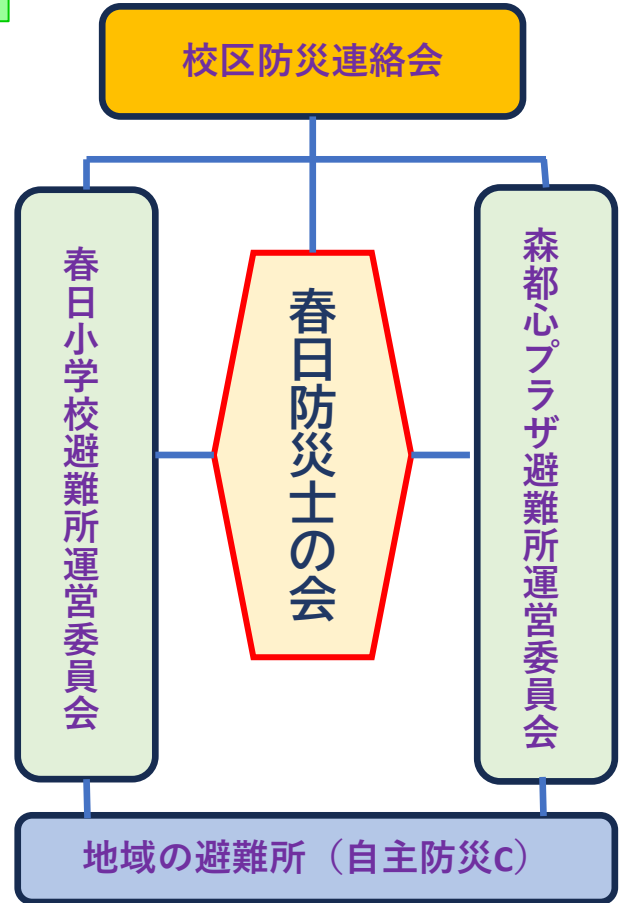
3 現在の課題と今後の取組

【現在課題として捉えていること】

- ・地域防災の土台となる自主防災クラブ（町内自治会）との連携強化
- ・マンション等の集合住宅における、自宅避難者の把握や、避難困難者に対する支援。
- ・熊本地震時も問題となった帰宅困難者に対する対応
- ・校区防災連絡会・春日防災士の会と関係団体との更なる連携強化

【課題解決に向けて今後の取り組み】

- ・自主防災クラブ（町内自治会）への協力要請を行うとともに、防災講演会等の研修の充実を図る。
- ・マンション管理組合等への協力要請など活動の連携協力体制の確立を図る。
- ・熊本駅帰宅困難者協議会との連携に向けた、会議・連携訓練等の実施。
- ・校区防災連絡会と春日防災士の会の位置付けを明確化し、業務負担の軽減を図る。



4 参考資料など

【春日防災士の会とは】

- ・災害発生時における災害弱者（高齢者・妊産婦等）の避難を第1に実動可能な地域の防災組織として、防災士・消防団・校区の団体等で立ち上げた組織であり、春日校区を「どぎゃんかせんといかん！」との思いを持つ有志一同のこと。

【発足】

令和5年3月29日

【これまでの活動】

- ・発足以来全24回の勉強会及び会議の開催（令和5年3月～令和6年11月）
- ・春日校区町内マップ作成（令和5年6月）
- ・春日校区防災連絡会の構成組織の一部となる。（令和5年9月）
- ・春日校区「我が家の防災メモ」作成配布（令和6年5月）※別添資料参照
- ・春日「ぼうぶら祭り」防災ブース出展（令和6年8月10日）
- ・令和6年度春日校区地域住民参加型避難訓練・熊本市震災対処訓練（令和6年11月24日）

別添資料(我が家の防災メモ)

災害時連絡先・避難する場所・備蓄品・非常持ち出し品のチェックリストなど、家族で共有する様式となっている。

(裏面) **避難所情報** (災害の状況や規模により開設場所)



令和6年度版 発行：令和6年4月 春日校区 わが家の防災メモ

令和6年度版 発行:令和6年4月

春日校区防災連絡会

見える
ところに！

風水害や地震など突然の災害に備え、日頃からご家庭で話し合い必要な事項を記入しておきましょう。災害の発生を想定し「いつ」「誰が」「何をするのか」をあらかじめ時系列で整理した自分自身の避難計画（マイタイムライン）を作成することで災害時のリスクの軽減につながることが期待できます。春日校区防災連絡会は「災害に強いまちづくり」を目指しています。



1：災害発生時の連絡先

★ 早めの情報確認と判断、また、ご近所の方同士で連絡先を把握しておくなど、声掛けをさせていただきます。

【緊急連絡先】 家族やご近所など	①氏名 ☐	②氏名 ☐
【町内の連絡先】 自治会や町民生活センターなど	①氏名 ☐	②氏名 ☐

2: 避難する場所

裏面の避難所を確認して、自宅の近くの避難所を確認しておいてください。

【大雨の場合】	①避難先 雷	②避難先 雷
【台風の場合】	①避難先 雷	②避難先 雷
【地震の場合】	①避難先 雷	②避難先 雷

3：備蓄品・持ち出し品の準備

★ 必要な物・必要な分を備蓄。避難時の持ち出し品はすぐに取り出せる場所に保管する。

- [illegible]

★西区保健子ども課で「子育て世代のための西区防災BOOK」が作成されました。

子育て世代はぜひ防災BOOKと防災シートを使ってあなたのご家庭にあった備え

ダウンロードはこちらから→→



【裏面】

避難所・避難場所・宿泊施設など避難に関する情報を発信している。

春日校区防災連絡会の訓練及び学習会風景



防災士の会による学習会



我が家の防災メモ作成風景



ぼうぶら祭り防災ブース出展



R6春日校区震災対処訓練事前会議



春日校区住民参加型避難訓練



震災対応訓練時の意見交換

飽田東・西・南校区の取り組み

地域名:飽田東・西・南校区

1 地域の概要

【面積】 飽田東：3.80km² 飽田西：4.96km² 飽田南：3.34km²

【地域人口】 飽田東：7,956人 飽田西：2,593人 飽田南：2,762人

(令和6年4月1日時点。以下同じ)

【世帯数】 飽田東：3,358世帯 飽田西：1,117世帯 飽田南：1,075世帯

【高齢化率】 飽田東：25.2% 飽田西：30.4% 飽田南：24.2%(65歳以上)

【地勢的特徴】

飽田地区の地勢的特徴としては、熊本市の西南部に位置し、東西に細長い形状をしており、西側は有明海と面し、北側には白川が流れている。また、地区の中央には国道501号が縦断し、北側には県道51号線熊本港線が横断している。

平坦な地形であるため、地区の西側を中心に豊かな田園地帯が広がっており、特に地区の東側では宅地開発が進み、人口が増加している。

【想定される災害】 洪水、高潮、津波

【校区内の建物がある指定緊急避難場所】

飽田東：飽田東小学校、飽田中学校

飽田西：飽田西小学校

飽田南：飽田南小学校、飽田まちづくりセンター・公民館



飽田東・西・南校区

2 熊本地震以降、地域で取り組んできたこと

【課題解決に向けた取り組み①】

○飽田防災士の会を設立（飽田東・西・南校区合同）

【自治会の課題】

- ➡校区防災連絡会、避難所運営委員会に**防災に関する知識を持った役員が少ない。**
- ➡多種多様な自治会活動の中で**防災まで手が回らない。**

【防災士の課題】

- ➡せっかく防災士の資格を取得したのに**知識を活かす場所がない。**
- ➡地域の防災活動に参加したいがどうすれば良いか分からない。

令和5年7月、課題解決のために、**飽田防災士の会を設立**

【自治会のメリット】

- ➡自治会の「防災」を防災士の会が担当することにより、**負担軽減**につながる。

【防災士のメリット】

- ➡防災士の活躍の場が増えることで、**スキルアップ**と**モチベーションの向上**に繋がる。

【防災士の会の主な活動内容】

- ・地域住民に対する防災講習会の実施
- ・地域や小学校の避難訓練等における実施補助
- ・マンホールトイレ等の設置訓練指導
- ・防災に関する普及・啓発

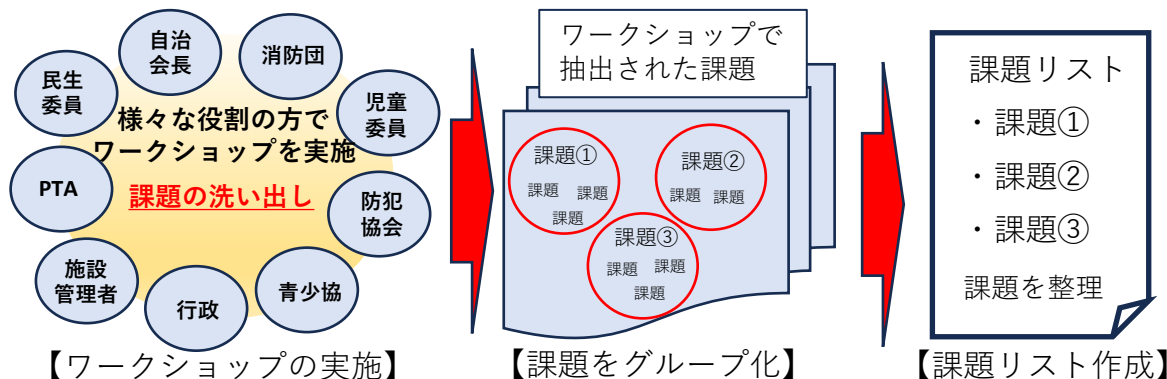


2 熊本地震以降、地域で取り組んできたこと(続き)

【課題解決に向けた取り組み②】

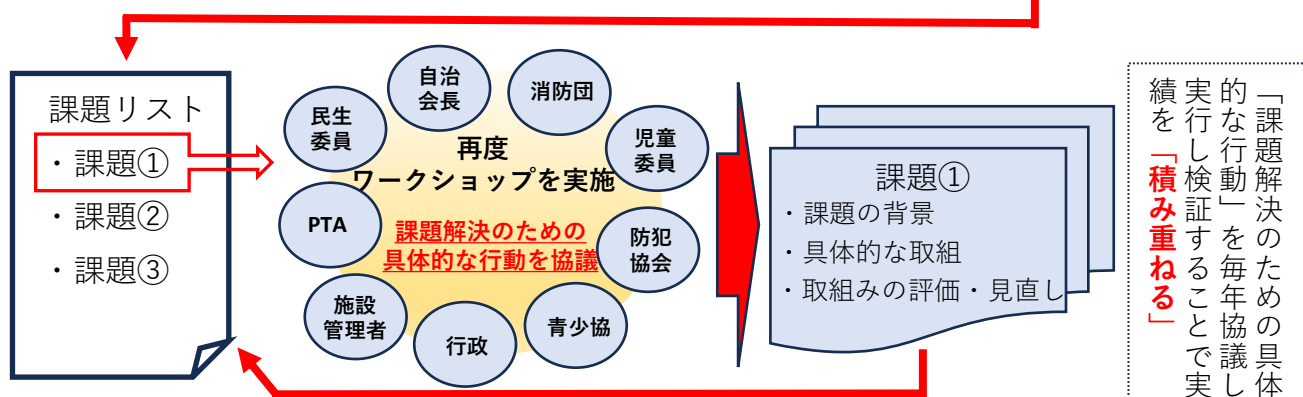
○飽田地区防災計画を作成（飽田東・西・南校区ごとに作成）

① 校区ごとの防災に関する課題を整理し「課題リスト」を作成



地域の様々な役割の方が感じている課題を分かりやすく整理し「見える化」

② 防災に関する課題解決に向けた「行動計画」を作成



【行動する課題を選択】

【ワークショップの実施】

【行動計画を作成】

- ➡地区防災計画は「課題リスト」「行動計画」「防災マップ」の3部構成で作成
- ➡課題リストや行動計画の内容は毎年見直しや追加していくことで継続した取組を支援

「地区防災計画」の防災マップ



飽田地区防災計画 [こちら](#)

2 熊本地震以降、地域で取り組んできたこと(続き)

【課題解決に向けた取り組み③】

○防災意識を向上させるための様々な取り組み

1 飽田西小防災フェスティバル (令和5年、6年実施)

目的⇒子供から大人まで、みんなで楽しく防災を学ぶ

対象⇒小学生及び保護者、地域住民

内容⇒防災食体験・備蓄倉庫、非常持出品の確認

飽田西校区に関する防災講話

煙体験・消火器訓練・マンホールトイレ展示

工夫した点⇒

各ブースでは体験したり説明を聞いた後に、担当者から出されるクイズに答えることでスタンプを集める「クイズスタンプラリー」形式により、楽しく防災を学びました。



2 飽田西校区マイタイムライン研修 (令和4年実施)

飽田西小学校PTA、飽田西校区子育て支援ネットワーク主催

内容⇒ハザードマップの見方・飽田西小の災害リスクについて

マイタイムラインの必要性と作成方法

3 飽田東校区第5町内(砂原)自主防災訓練 (隔年実施)

飽田東校区第5町内(砂原)の自主防災クラブを中心に訓練を実施

内容⇒防災講話・マンホールトイレ展示・非常食体験

備蓄倉庫確認・消火器訓練・煙体験

工夫した点⇒マンホールトイレの展示は「飽田防災士の会」が担当することにより自治会の負担を軽減した。



4 飽田東校区第4町内(正保)の取り組み

○正保地区のゴミステーションに消火器を設置

⇒地区内にある24カ所のゴミステーション全てに消火器を設置(令和5年度設置)

⇒日頃から頻繁に利用するゴミステーションに設置することで防災・防火意識を向上

⇒正保地区の住民を対象に消火器取扱訓練を実施(令和5.10.20)

○町内回覧板に防災に関する記事「かたらんね～」を掲載

⇒「かたらんね～」の由来は、自治会の活動内容が分からないという声に対して、活動内容を紹介した記事を掲載し、活動内容を知ってもらったうえで自治会活動に参加(熊本弁で「かたる」)してもらう意味を込めて命名された。

⇒R5年から毎月1回発行、季節に応じた防災に関する身近な情報を掲載



5 飽田地区3小学校(東・西・南)での防災学習

○令和5年度に作成した飽田地区防災計画の防災マップを使用して、小学生自らが避難経路や備蓄品について学び、幼少期からの防災意識の向上を図る。

(飽田東・西・南小学校で実施)

○紙芝居による防災講話(飽田東小で実施)

⇒児童育成クラブ1~3年生に対して飽田防災士の会が作成した「紙芝居」を使って、子供達にも分かりやすい防災講話を実施(令和5.11.20実施)



3 現在の課題と今後の取組

【現在の課題】

➡ 鮎田地区は旧住宅地の中に新たな住宅開発が進んでいることや、特に近年は新型コロナウイルス感染症の影響により地域の祭りやイベントなどが実施できなかったことで、地域住民同士の交流が減少し地域のつながりが希薄化している。

➡ 自治会長の高齢化や担い手不足が懸念されている中、自治会活動は多岐にわたるため負担軽減を図ることが求められている。

【今後の取組】

① 鮎田防災士の会の活用による自治会長の負担軽減

➡ 防災に関する専門的な知識を有した防災士が地域の防災活動を担うことにより、より高度な防災訓練やイベントを開催することが出来るとともに、自治会長の負担軽減につながる。

また、防災イベント等で世代間交流を進めることで地域のつながりが深まることにも期待できる。

② 鮎田地区防災計画の活用

➡ 地区防災計画内の地域の課題や行動リストに応じた防災活動を展開し、地区で実施した防災訓練やイベントは計画に実績を記録し、活動の検証や改善を重ねることにより、自治会長が交代した時も申し送りの精度が上がり、継続性をもった防災活動が実施できる。

4 参考資料など

○ 鮎田西小防災フェスティバルの様子

【鮎田西小PTAによる
非常持ち出し袋の説明】

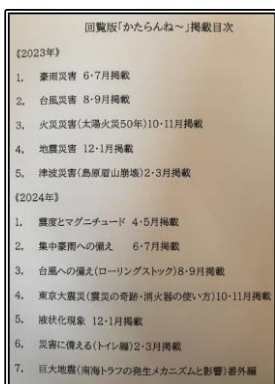


【非常食の試食】

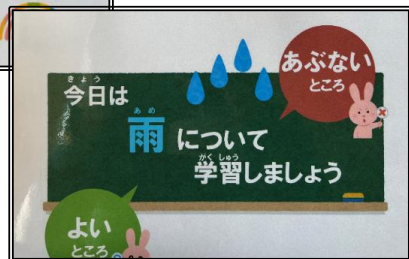
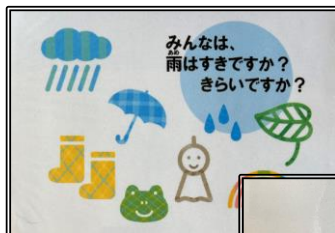
【鮎田防災士の会による
マンホールトイレの展示】



○ 鮎田東校区第4町内（正保） 「かたらんね〜」掲載記事



○ 防災士の会による紙芝居



城北校区の取組

地域名：城北校区

城北校区

1 地域の概要

【地域人口】8,720人 【世帯数】4,709世帯

【高齢化率】25.3% ※地域人口・世帯数・高齢化率は令和6年9月現在

【地勢的な特徴】

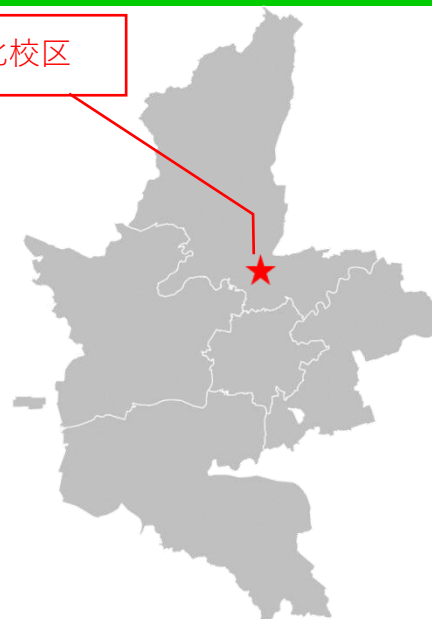
城北校区は北区の南部に位置しており、水の科学館をはじめ、水に関する施設の多さが特徴的な校区となっている。

【想定される災害】

河川の氾濫、土砂、台風、地震

【その他、特筆すべき地域の特徴】

避難所運営委員会関係者は、危機意識・防災意識が高い。



2 熊本地震以降、地域で取り組んできたこと

【課題】

令和2年1月、校区防災連絡会・各避難所運営委員会立ち上げ以降、避難所開設・運営について、専門知識がある住民（防災士）が少なく、各種訓練を計画・実行して、城北小学校・清水中学校の避難所マニュアル等を作成、速やかに大規模災害発生に備える必要性があった。

【課題解決に向けた取組等の概要】

- ①HUG訓練:2回（避難所運営と判断の難しさを机上で体験）
- ②**避難所開設・運営訓練**：R2～R4：1回／年度（個別訓練）
R5～R6：2回／年度（総合訓練）
- ③その他：市広域防災センター研修（地震・台風・火災など体験）
北区防災シンポジウム参加（パネラー、研修者）
清水地区民生委員へ防災講話（災害時の民生委員活動）

【特に工夫してきた点など】

- ①避難所開設・運営訓練の5カ年計画の作成・実行（目標と訓練項目等）
全員参加型会議により、各班の綿密な訓練計画の作成（参画意識の向上）及び訓練終了後の確実な振り返りによる問題点の洗い出しと改善策の案出
- ②災害を想定した状況（避難者、状況付与カード等）で避難所訓練の実施
- ③地域住民への避難所開設・運営活動の周知及び広報
町内会広報紙、県民テレビ取材協力、各町内会総会時の活動説明等



3 現在の課題と今後の取組

【現在課題として捉えていること】

- ①大規模震災発生時に集まれる避難所運営委員会の人員不足が懸念され、円滑な避難所の開設・運営への影響が考えられる。（理由：仕事、被災、体調不良等）
- ②実際に避難所を運営するためには、災害を想定した状況（被害状況、多種多様な避難者等）で、状況に応じた活動時間での訓練が必要である。
また、各班の活動を第3者が評価し、随時避難所運営の改善を図れる態勢づくりが必要である。

【課題解決に向けて今後取り組んでいきたいこと】

- ①各種訓練に際し、多くの避難所運営委員に参加を呼びかけ、避難所開設・運営経験者を努めて増加させる。同時に、地域住民の方々に当初は避難者として参加をしてもらい、関心を持ってもらった後に、避難所運営委員会の一員として加入を促す。
- ②訓練に専念する避難所運営委員会と災害を想定した状況を付与・活動の評価するチームを組織して訓練する。そのチームを組織するため、更なる防災士の育成と他校区の防災士及び支援者との連携に努める。

4 参考資料など

①5カ年計画の成果（R2～R6）

これまでの防災訓練の成果			
当初の訓練目標 (設立～5年後)		大規模震災発生時に、各避難所運営委員会の勤務者及び一部の避難者の協力を得ながら、避難所の各施設等を開設し、発災から3日頃までの初期において、各班の機能が発揮でき、避難所としての運営が概ね実施できるレベルに到達する。	
年度	主な訓練成果	参加者数	備考
令和2年度 (8月)	①避難所開設手順の確認 ②校内のレイアウトの作成 ③防災倉庫の食料・物品等の確認	約10名	コロナを考慮しない避難所開設・運営
令和3年度 (4月)	①「体育館等の避難スペース（レイアウト）及び「設置場所」の検討・設定 ②「福祉避難室（要配慮者専用）」の検討・設定 ③「保健室（コロナによる発熱者等）」の検討・設定 ④「発電機の操作」の習得及び「マンホールトイレ」の設置場所の確認等 ⑤「バーベキュー」の設置要領の習得	約15名	コロナ禍での訓練
令和4年度 (10月)	①「避難所の開設」の習得及び「マンホールトイレ」の設置場所の確認等 ②「バーベキュー」の設置要領の習得	約20名	①コロナ禍での訓練 ②熊本県民テレビの取材、放映（テレビタミン）
令和5年度 目標：4年度目標	①「避難所の開設」の習得及び「マンホールトイレ」の設置場所の確認等 ②「バーベキュー」の設置要領の習得	約40名	
令和6年度 目標：5年度目標	①「避難所の開設」の習得及び「マンホールトイレ」の設置場所の確認等 ②「バーベキュー」の設置要領の習得	約40名	各班毎に事前に訓練計画を作成し、実施
令和7年度 目標：6年度目標	①「避難所の開設」の習得及び「マンホールトイレ」の設置場所の確認等 ②「バーベキュー」の設置要領の習得	約40名	避難所を想定し、一部の班で最終状況下の訓練
令和8年度 目標：7年度目標	①「避難所の開設」の習得及び「マンホールトイレ」の設置場所の確認等 ②「バーベキュー」の設置要領の習得	約40名	状況付与カード等によるリアルな状況を作

③避難所・開設運営訓練の様子等



- ②R4 特別警報級台風接近時、初めて避難所を開設・運営を実体験（宿泊）（避難所運営委員会：約10名）

【 お問い合わせ 】

政策局危機管理防災部防災対策課	0 9 6 - 3 2 8 - 2 3 6 0
中央区役所区民部総務企画課	0 9 6 - 3 2 8 - 2 6 1 0
東区役所区民部総務企画課	0 9 6 - 3 6 7 - 9 1 2 1
西区役所区民部総務企画課	0 9 6 - 3 2 9 - 1 1 4 2
南区役所区民部総務企画課	0 9 6 - 3 5 7 - 4 1 1 2
北区役所区民部総務企画課	0 9 6 - 2 7 2 - 1 1 1 0